

令和5年6月15日

南の風恩塚女子ジャパン特集号Ⅱ

南部地区ミニバスケットボール連盟
会長 藤原 敬一

前号の続きです。

さらに恩塚ヘッドは、世界のチームは”ノー3P、ノーレイアップ”という傾向にあるとし、エルボー、ローポストでオープンを作る戦術や一人の仕掛けに対してシンクロする、いつでも誰でも仕掛けられるという戦い方を目指すと語った。

またキャプテンに、林 咲希、PG ポジションリーダーに、町田 瑠唯(ケガのため、三井不動産カップ、アジアカップは欠場)、C ポジションリーダーに高田 真希を選出した。

最適な戦術、戦い方を「コーチと選手、ポジションリーダーとのコミュニケーションで見つけ出した」、さらに「勝つためのメンバーを起用していく。パリ5輪に向けた大会は一戦必勝で、優勝目指して最善を尽くして戦っていききたい」とも語った。

2022年のワールドカップを振り返って、「Wカップで、勝利に導けなかった悔しさを今日まで持って、合宿をスタートさせた。なんとかしたい。燃えています」

この後、恩塚ヘッドは5月23日第2次合宿前のインタビューで次のようにコメントしました。

————— 今年度の強化戦略は —————

恩塚ヘッド: 2022のFIBA女子ワールドカップで、日本のバスケット界を前へ進められず、また選手を勝利に導くことができなかつた悔しさを持って、今年度の合宿をスタートしています。その再チャレンジの強化プランを考えました。これまで「40分間、世界一のアジリティを発揮し抜く」ことで、世界に勝っていこうとし、それを「カウンターバスケット」で表現しようとしてきました。

しかしワールドカップで得られた課題と、日本の強みをさらに強化していくために、さらなる強化ポイントを3つ考えました。

1つ目は「ポジショニング力」です。これは体格差を克服するためのキーワードとして考えています。

2つ目は「日本の強みを封じる相手に対応する」ことです。これは得点力アップにつなげる鍵だと思っています。

そして3つ目として「カオスを制する」戦いをしていきたい。カオスの中で「最適」を選び続ける力です。

————— 3つの要素を掲げた意味は —————

恩塚ヘッド: どのようにしたら日本の強みが発揮できるのか考えたとき、そもそも強みは自分たちを高めていくことで出していく要素と、相手に削られることによって、その次の一手さえ発揮できなくなる要素の、2つがあると考えています。

それらは相関関係にあるわけですが、それを高める方向に伸ばすためのキーワードを3つに集約したのです。

————— 恩塚ヘッドが考える、日本が磨くべき強みとは何ですか? —————

恩塚ヘッド: それがアジリティです。次から次へとその場に即応して、合理的な意思決定をチーム全体で行う力、それをブレることなくやり抜けることが日本の強みだと思っています。 次号に続けます。